

温泉小で歴史学習 町内遺跡から縄文文化を理解

4 月26日、洞爺湖温泉小学校（加賀谷真由美校長）6年生（7人）の社会科で、ふるさとの先人の暮らしを学ぶ授業が行われ、その暮らしぶりに理解を深めました。

町内にある入江・高砂貝塚などの縄文遺跡と結びつけながら、縄文文化を理解しようと、教育委員会の角田隆志学芸員を講師に実施。

一問一答形式で行われた授業では、児童らから縄文人の生活のようすや縄文土器の使い方などの様々な質問がだされ、最後には、

遺跡から出土した歯や骨を手で触れたりして、大昔の人たちの暮らしをかいまみました。



縄文文化への理解を深めた温泉小の歴史学習

洞爺湖の春を五感で楽しむ「春がやってきた 足元にいるいきものさがし」が、ゴールデンウ



洞爺湖の春を探す参加者ら

ィークの初日4月28日財田自然体験ハウスで、親子づれなど約20人が参加して開かれました。

やわらかい日差しが春を感じるこの日、参加者は同体験ハウスの周りを1時間ほど散策し、ダンゴ虫、わらじ虫、トビ虫などいろいろな生きものを、ルーペを使って観察しました。

午後からは、見つけた虫などを見本に、大小のサイズの木を組み合わせて標本を作り、春の訪れを実感しました。

洞爺湖の春 いきもの探して実感

4 月28日、8回シリーズの縄文ロビー講座「骨は語る～動物の骨からみる人と動物の



三谷学芸員(中央)の話を聞く講座参加者の皆さん

かかわり」（教育委員会主催）の第1回「動物の骨のあれこれ - 骨の雑学と見分け方」が、入江・高砂貝塚館で、10人が参加して開かれました。

町の遺跡から数多く骨が出土することなどから、骨とおして縄文人の食生活や狩猟の仕方、入江・高砂の貝塚の特徴などを知り、縄文文化への理解を深めようと企画されました。

当日は、三谷智広学芸員が、骨の構造や動物考古学での骨の扱い方、観察の方法などをくわしく説明しました。

骨から知る縄文文化 第1回縄文ロビー講座開催

西山散策路整備 町建設協会ボランティア

観 光シーズンを迎え、痛みが激しい西山散策路の杭の補修を、5月16日洞爺湖町建設協会(加藤恵蔵会長)が行いました。

午前9時過ぎから始まった作業には、会員の各社から13人が参加。古い杭を、太さ8センチ長さ120センチほどの新しい杭に130本交換し、ロープを張りなおしました。同時に頂上にある掲示板も補修し、観光客が楽しく歩けるよう整備しました。加藤会長は「整備した散策路に多くの観光客が



西山散策路を整備する建設協会の皆さん

訪れてほしい」と多くの人が訪れるのを期待していました。

まちのわだい

